

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300529		
法人名	社会福祉法人 博愛会		
事業所名	グループホーム山口あかり園		
所在地	山口県山口市黒川3363番地		
自己評価作成日	平成28年12月27日	評価結果市町受理日	平成29年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な環境の中で、利用者の皆様と職員が三食とも一緒に食事をつくり、一緒に食事をしています。食材は園芸活動で育てた野菜やできる限り地元産を使用し、地産地消に取り組んでいます。利用者さん・ご家族の意向を反映したメニューを提供しています。 ・入浴は利用者さんの生活パターンに合わせて昼間・夜間入浴と柔軟に対応しています。 ・毎日行っている体操で、体力低下防止や、心身機能の維持向上に努めています。 ・同敷地内に病院・老人保健施設・特別施設有料老人ホーム・居宅介護支援事業所・地域包括支援センター等があり、医療・保健・福祉の連携のもと、サービスを提供しています。 ・定期的に季節の行事を施設内で行い、地域の行事にも積極的に参加しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年1月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所で三食とも食事づくりをされています。法人の管理栄養士の献立を活用されて、利用者の希望を取り入れた献立を作成しておられます。事業所の畑で採れた野菜や、週2回開かれる地域の野菜市場で利用者と一緒に買った野菜など、旬で新鮮なものを使用され調理しておられます。利用者は、食材の買い物や畑の野菜の収穫、野菜の下ごしらえ、調理、配膳、下膳、テーブル拭きなど、できることを職員と一緒にされています。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで同じものを食べ、会話をされながら食事を楽しまれています。利用者の誕生日には、担当職員の支援で、買い物や美術館、喫茶店、外食などを楽しまれています。利用者一人ひとりのできることを把握されて、映画鑑賞会やカラオケルーム、体操やテレビ視聴、生け花、その日の食事メニューを書く、食事の準備や買い物、洗濯物干しや洗濯物たたみ、野菜の水やり、収穫など、楽しみごとや活躍できる場面づくりをされ、利用者が喜びや張り合いを持って、日々を過ごせるように支援に取り組まれています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を事務室内に掲示し、全職員が共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	法人の理念と事業所の理念を事業所内に掲示し、朝の申し送り時に唱和し、共有している。毎月のユニット会議で、理念に沿ったケアができているかを話し合い、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域と共催する納涼ふれあい祭りや地域の文化祭・お祭りへの参加、地域の保育園児との交流会等、地域行事への積極的な参加。また地元自治会主催の野菜市等の利用も行っている。地域の介護・看護養成校からの実習生の受入れや地域の集會に施設長が出席し情報交換を行い、地域との関係が深まるように取り組んでいる。	週2回、法人敷地内で開いている自治会主催の野菜市場に、利用者と職員と一緒に食材にする野菜を買いに行ったり、地域の文化祭や地域の祭、神社の祭に出かけ、地域の人と交流している。法人主催の納涼ふれあい祭りには、利用者や地域の人参加して、高校のブラスバンドの演奏や民謡、よさこい踊り、バザーやゲームなどを見学して楽しんでいる。デイサービスセンターに來訪している保育園児とのふれあいや、クリスマス会や敬老會にボランティア(歌や手品、ギター、ハーモニカ演奏)が來訪している。利用者は周辺の散歩や買い物の時出会った地域の人と挨拶を交わして交流している。介護や看護の専門学校生の実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進會議にて、自治會長や地域住民(利用者の家人も含む)の皆様からの地域の様々な情報や意見をもとに、地域の皆様に必要とされているテーマを取り上げ、情報の提供をしている。また敷地内にある地域包括支援センターや居宅支援事業所に來られる地域住民の皆様の中で事業所見學や説明等が必要な家族の方には随時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	施設長・管理者・職員が評価の意義を理解し、評価結果の指摘事項については、見直し、改善に可能な限り取り組んでいる。	ユニット毎に、評価の意義を職員に説明し、常勤職員に自己評価してもらい、ユニットリーダー2人で話し合っ自己評価表を作成している。前回の外部評価結果を受けて、ノロウイルスの嘔吐物処理についての訓練を実施している。27年度の自己評価の目標達成計画で働きやすい職場づくりを取りあげて、職員のストレスチェックや個別面談、保健師がアドバイザーとして取り組んでいる。	・全職員での評価への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、活動報告や毎回テーマを決め意見交換を行い、参加者から出された意見を積極的にサービスの向上に活かしている。欠席のご家族にも後日、報告書をお届けしている。	会議は2ヶ月に1回開催している。事業所の取り組みを報告している他、法人の防災管理者が訓練の様子や防災避難所について報告している。利用者の事業所での様子をスライドにして上映したり、毎回、テーマを決めて意見交換している。年1回、昼食会をして、参加者にアンケートをとっている。参加者から、認知症カフェへの利用者の参加の誘いがあり、利用者が出かけているなど、意見を活かしている。	・地域メンバーの拡大の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当課には、諸手続き以外も相談をして助言を得ている。また敷地内にある包括支援センターとは、随時の相談にも対応していただけるように連携を密にしている。	市担当者とは、運営推進会議時に情報交換している他、電話や直接出向いて相談し、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアの実践を常に心掛けており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関等の出入口は基本的に施錠は行わず、利用者が自由に出入りが出来る様にしている。	マニュアルがあり、外部研修を受講した職員が、内部研修で復命して学び、全職員が正しく理解して拘束や抑制をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠していない。外に出たい利用者には、職員と一緒に外へ出て支援している。スピーチロックについては、ユニットリーダーが注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修に参加したり、関係資料等で理解・意識を深めている。施設内では、ケアの中で無意識のうちに虐待と思われる行為が行われていないか職員間で確認し合い、全体会議で取り上げ、虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修に参加したり、関係資料等で理解・意識を深めている。成年後見制度を利用されている利用者がいらっしゃるので、成年後見人の方と接し、具体的な内容を支援しながら学ぶことができる。敷地内にある地域包括支援センターと連携し、必要時には運営推進会議等を通じ利用者・家族への情報提供ができる体制になっている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定時に家族に重要事項を説明し、不安や疑問点の解消に努めている。入居後、説明した内容に変更等がある場合は、書面にて説明し理解・納得が得られるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付体制の説明を行っている。本人の思いは、日々の関わりの中で、本人の言動や様子等を把握し、記録に残し職員が共有しケアに活かしている。家族からの意見や要望は、面会時、電話、定期的開催しているカンファレンスや運営推進会議等で吸い上げている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きについて定め、契約時に家族に説明している。年2回のカンファレンス時には、重ねて家族に周知している。面会時や運営推進会議時、カンファレンス出席時、事業所行事参加時、電話などで、家族から意見や要望を聞いている。ケアに関する要望には、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット長会議・ユニット会議を行い、利用者のケアや業務の見直し等についての意見交換の場としている。年4回の職員全体会議を実施し、職員の意見が運営・処遇に反映されている。	毎月のユニット会議や朝の申し送り時、年4回の職員全体会議などで、管理者やユニットリーダーが職員の意見や提案を聞いている。運営に関する意見は、法人運営会議に提案して、反映できるように努めている。人員不足による職員のストレス解消のため、施設長が職員の個別面談をし、保健師がアドバイザーとして、ストレスチェックをし、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況・心身の健康状態を把握した上で、必要に応じ面談を行い、要望・意見等の吸い上げを行っている。職員の意見を取り入れた勤務表の作成や休憩室の設置等常に最適な環境作りに努めているが、休憩時間については、利用者の状態、人員不足により、十分な休憩が確保できない場合があり、ストレスを感じている職員もいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階的に外部研修に参加できる機会を勤務の一環として提供している。受講後は、復命報告を行い、全職員が研修内容を共有できるようにしている。新任職員については、ユニットリーダーや先輩職員による指導を、個々人の能力に応じ実施している。	外部研修は職員に情報を伝え、段階に応じて勤務の一環として、職員に参加の機会を提供している。年4回参加している。受講者は、内部研修の中で復命研修をしている。拠点内合同研修を年1回実施している。内部研修は、年4回の全体会議の中で、感染症対策（インフルエンザ、ノロウイルスの対処法）、権利擁護、虐待防止について、人生のキャリアについて（中堅職員）などを実施している。新人研修は法人での研修後ユニットリーダーが1ヶ月指導している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口市の施設サービス部会の会議や研修に参加し、同業者との交流の機会を設けているが、参加できない場合もあり、他施設の見学や情報交換の場を設け、サービスの質の向上を図っていきたい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に来園していただき、施設行事（茶話会等）への参加や体験宿泊等の機会を設けたり、入居前の担当ケアマネや利用施設の職員・家族からの情報を得ることで、本人が安心して新しい環境に馴染んでいただける様に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人と一緒に来園していただき、不安なことや要望等家族からできるだけゆっくりお話を聞ける時間の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に得た情報や入居時の本人の状態を把握することで本人に必要なサービスを見極める様努めている。必要に応じて他のサービス・施設の見学や説明等も行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気環境の環境作りに努め、利用者職員が、家族のように支え合い協力して毎日を過ごしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に対し、家族と同じ気持ちで接し、常に家族に相談をしながら家族と共に本人を支えていく意識を職員が持つように努めている。家族には、カンファレンスや機関紙等を通じ、情報提供を行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の生活歴を把握したうえで、本人の馴染みの場所や店への外出支援を行っている。遠方の親せきや知人からの手紙や電話、地域の文化祭や神社の祭りへの参加等関係がとぎれないようにしている。	家族の面会、親戚の人や友人、知人、前に住んでいた近所の人、ケアハウスの人、元の職場の人などの来訪がある他、手紙や年賀状のやりとり、電話の取りつきなどの支援をしている。行きつけの美容院の利用や自宅周辺のドライブ、地域行事への参加の支援、家族の協力を得て、同窓会に出かけたり墓参りや法事への出席など、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者同士の関係を把握し、利用者同士と一緒に過ごせる時間・場所の提供をしている。共同作業を見守りで行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて、可能な限りの相談・支援に努めている。併設施設へ移られた場合は、職員への情報提供を積極的に行い、機会あるごとに利用者本人への声かけを行い関係を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家族からの情報・日々の関わりの中で、本人の言動や様子を記録に残し、本人の思いや意向の把握に努め、共有している。また月1回行っているユニット会議で個々について職員が意見を出し合い、その人らしい生活が送れる様支援している。	バックグラウンドアセスメントシートに、利用者の生活歴や情報を家族が書き込んだ基本情報を活用している他、日々の関わりの中での利用者の様子や言葉を生活記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から情報を得たり、月1回のユニット会議で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に記入していただいた基本情報や日々の関わりの中で、これまでの生活や環境等を本人から聞き出し、記録に残し、共有し、把握に努めている。また入居前の担当ケアマネや他事業所等に情報提供をしていただき、これまでのサービス利用の経過等に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録、申し送り帳を利用し、生活状況・心身状態等の把握に努めている。有する力については、定期的に行われるカンファレンスやモニタリング等で「できること・できないこと」を家族に伝え、確認して、現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議や6ヶ月に1回のケアカンファレンス(本人・家族参加)、3ヶ月に1回のモニタリングを通じ、それぞれの意見や思いを反映した介護計画を作成している。本人の状況に変化が生じた場合には、随時、本人・家族等と話し合い、見直しを行っている。	ユニット会議で、計画作成担当者や利用者を担当している職員を中心にして、本人の思いや家族の意向、かかりつけ医の意見などを参考にして、全職員で話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月に1回、家族の参加を得て、担当者会議(ケアカンファレンス)を開催し、3ヶ月毎に実施したモニタリングを参考にして話し合い、介護計画の見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度、話し合って見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容・健康状態(バイタルチェック・排泄状況・食事摂取量等)等を記入した個別のケース記録を共有し、実践や介護計画の見直し、または体調不良時の受診等にも活用している。ケアプランに対する評価を担当職員が月末に行い、職員間の情報の共有を図り、見直し等に活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の対応や外部医療機関への受診の付き添い等、本人・家族の状況により柔軟な対応が出来る様心掛けている。必要に応じて同敷地内にある他施設の各分野の専門職に助言・応援等をしてもらえるよう、常に連携を取り、柔軟な支援に努めている。特に、認知症専門医との連携を強化している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園児交流会や公民館祭りへの参加、地元スーパーや美容院の活用、一人ひとりが暮らしを楽しむことができる様支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の同意の上、敷地内の協力医をかかりつけ医とし、月1回の往診、年1回の健康診断を行っている。緊急時には日中・夜間を問わず適切な医療をうけられるように支援している。さらに手厚い医療を受けられるように、協力病院との連携に努めた。	利用者は協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回の往診がある他、年1回、利用者の誕生日に合わせて健康診断を受けている。緊急時や夜間には、協力医療機関が対応している。必要時には、協力医療機関の看護師が来訪して支援している。他科受診は、家族の協力を得て支援している。受診時には、利用者の様子や情報を記入した文書を医師に渡している。協力医療機関と連携を図り、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昼夜を問わず気になることがあれば、協力病院の外来・担当病棟の看護職員に相談し、指示をもらうことができる。しかし、看護職との情報交換には限界があり不十分な点もあると感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療できるように利用者情報を病院に提出している。病院でのカンファレンスへは、家族・病院の了解の上参加し、早期退院に向けての協力を努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、契約時に家族に事業所の方針を説明し、同意の上共有している。実際に重度化した場合は、状態の変化がある度に家族・主治医、関係者等と話し合い、方針を共有しながら支援に取り組んでいる。病院への入院・他施設への入所も含め支援している。	重度化について、事業所でできる対応を、契約時に家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合には、その都度、かかりつけ医や家族、関係者と話し合い、入院や入所などの移設も含めて方針を決め、共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット報告書や事故報告書の記録をもとに、月1回行われる隣接施設との合同事故対策会議等で改善策等を検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。また、運営推進会議で事故防止に対する取り組みを資料を使い具体的に説明し、出席者に理解を得ることができた。AED講習会(園内)へも参加し、実践力を身につけるよう努めている。	事例が発生した時には、その場にいた職員で、ヒヤリハット報告書、事故報告書に、内容や原因、対応策を記録し、全職員に回覧して共有している。月1回の拠点内合同事故対策会議で改善策を検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。AEDの講習会への参加やノロウイルスの吐物処理の訓練などを実施しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。協力医療機関の看護職の協力が得られている。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接施設と合同で、年2回日中・夜間想定での避難訓練、消火器の使用での消火訓練を行い、その都度マニュアルの見直しをしている。	同一敷地内にある同法人施設と合同で、年4回、火災を想定した日中、夜間を想定の情報、消火、避難訓練を、利用者が参加して実施している。内、グループホームが火元を想定し、2回行っている。法人施設が地域の避難場所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の気持ちになって接するように心掛け、馴染みの関係を築きつつも、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを行うよう努めている。不適切な対応があれば職員同士で声を掛け合い改善に努めている。	職員は内部研修で権利擁護や人格の尊重について学び、正しく理解している。職員は利用者に敬意を払いながら家族のように接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録は保管し、取扱いに注意している。守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、一人ひとりに合ったコミュニケーションのとり方を見極め行うことで、本人の思いや希望を表したり、自己決定ができるような支援に努めている。1対1であれば、口を開かれる方もいらっしやるので、日中・夜間、可能な限り話す時間を持つよう心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務等を優先するのではなく、常に寄り添い、見守りをしつつ、利用者の思いや希望を汲み取り、一人ひとりが無理せずペースを崩すことなく1日を過ごせるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや着替えは入居者個人の自由だが、組み合わせが不自然なものや季節に合わないものを身に着けている場合は、一人ひとりに応じた声かけを行い、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。定期的な美容院への連出しや行事(誕生日会や祭り)や外出時の化粧の見守りを行い、年齢を問わずおしゃれができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が三食とも一緒に調理し、同じテーブルで会話をしながら食事を楽しめるよう支援している。調理・配膳・食事の声かけ・後片付けは個々の能力に応じ分担し、参加していただいている。献立や食材について、本人や家族の希望を取り入れ、月1回はおたのしみおやつを実施したり、施設の畑で採れた旬の野菜を使った献立の提供も行っている。本人用の茶碗・湯呑み・箸を使用したり、月1回の外食を行うなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。	同法人の特別養護老人ホームの管理栄養士の献立表を活用して、利用者の希望を取り入れた献立を職員が作成し、三食とも事業所で食事づくりをしている。事業所の畑で採れた野菜や地域の野菜市場で購入したものなど、旬で新鮮な食材を利用している。利用者は食材の買い物、畑の野菜の収穫、野菜の下ごしらえ、調理、配膳、下膳、テーブル拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで同じものを食べながら会話を楽しんでいる。季節の行事食（おせち料理、恵方巻き、おはぎ、年越しそば）やおやつづくり（白玉ぜんざい、フルーツ寒天、プリン、ホットケーキ、どら焼き）、年に10回の外食、お弁当を買ってリンゴ狩りで食べたり、誕生日には個別に担当職員と出かけ、美術館、喫茶店、買い物、食事などを楽しんでいる。利用者の食事が楽しみなものになるよう工夫して支援している。その日のメニューを利用者が書いて掲示している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の献立について、職員全員の意見や案をもとに作成し、バランスのとれた食事が提供できるように努めている。個々の状態に応じて、ゼリー茶を補給をしたり、隣接施設の厨房より、事業所では提供できない形態の食事（ソフト食）の提供をしてもらうこともある。食事や水分摂取量について個人記録に残し、1日の状態の把握に努めている。			
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態・能力に応じた声かけ・見守りで口腔ケアを行っている。家族の要望により歯間ブラシを使用している利用者もいる。また訪問歯科診療を利用し、定期的な口腔内点検を行い、必要に応じ治療を行い、あわせて、適切なアドバイスももらっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の活用や日々の状況等から、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行うことで、排泄の失敗が減少した。またトイレ使用中を知らせるセンサーを設置したことで便汚染の回数が減った利用者もいる。誘導の声かけには、本人のプライドに配慮して行うよう努めている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導で、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、日々の排便状況を把握している。繊維質の多い食材を使用した食事、朝食やおやつ時に乳製品や寒天の摂取、毎食時や1日2回の茶話会や入浴後に水分補給を促す他に、散歩や毎日の体操、掃除等で体を動かすなど予防に向けての取り組みを行っている。必要に応じ、主治医に相談し指示をもらい対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	平均2日に1回のペースで入浴ができている。毎日の入浴希望がある方には可能な範囲での入浴を検討し、入浴拒否がある方には、声かけの工夫やシャワー浴や昼間入浴を行い、生活パターンに合わせて夜間入浴も実施している。体の小さな方が安心して入浴できるように浴槽台を準備するなど個々に応じた支援をしている。季節感を味わって頂けるように柚子湯の提供等で入浴を楽しむ工夫もしている。	入浴は毎日、13時30分から14時30分すぎまでと19時から20時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて入浴できるように支援している。利用者がこれまで使っていたものと同じ、自分の石けんやシャンプー、リンスを使うようにしている。仲の良い人同士で入浴したり、柚子湯や入浴剤を使用して、肌に出るおいが出るようにしたり、香りや色などで入浴を楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの1日のペースを把握して、安心して休息や睡眠がとれるよう支援している。室内温度を適正に保つ事で、安眠を促し夜間不安な訴えがある場合は、温かい飲み物を提供したり、話を聴いたりして不安を取り除き、安心して入床していただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用している薬については、個人ファイルに説明書を綴じ、職員全員が随時確認し、把握できるようにしている。薬は職員で管理し、服薬は最低2名の職員が関わり、手渡し・服薬確認を行い、飲み忘れや誤薬の防止に努めている。月1回の協力医の往診や状態変化等で薬の変更、追加があれば、申し送り帳に記入し情報の共有を図り、家族には必ずその都度報告し了解を得ている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味、残存能力を把握して、一人ひとりが活躍できる場をたくさん提供し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	テレビ視聴（NHK、スポーツ番組、歌番組、時代劇、動物番組、子ども番組）、DVD視聴、映画鑑賞会、カラオケルーム、歌を歌う、茶話会（毎日10時と15時）、新聞を読む、折り紙、ぬり絵、計算、漢字の書き取り、豆運び、写経、書道、縫い物、生け花、献立名を書く、テレビ体操、野菜の水やり、収穫、プランターの花植えや水やり、食材の買い物、食事の準備、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除など、利用者一人ひとりに合わせての楽しみごとや活躍できる場面をつくり、喜びや張り合いのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や買い物、月1回の外食や季節毎の行事での外出を行っている。その他に、職員と1対1での外出支援を月に1～2回行い、個々人の希望に応じ、コーヒーを飲んだり、季節の花を見に行くなどして、戸外に出かけられるよう支援に努めている。しかし、勤務体制上、全員の希望に添えるような外出支援とまではいえない現状にある。	事業所周辺の散歩や地域の祭りや神社の祭り、野菜市場、季節の花見（梅、桜、つつじ、菖蒲、紫陽花、コスモス）、リンゴ狩り、足湯、カラオケボックス、夜のイルミネーションドライブ、月1回の外食、利用者の誕生日に希望を聞いて、美術館や喫茶店、外食、個別の外出など、利用者が戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っておきたい、または持たしておきたいという本人や家族の希望により、所持していただいている方もいる。お金を持っている事で安心されている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人への電話は、職員が支援のもとかけている。また、本人に届いた郵便物を手渡したり年賀状の支援をして、外部との交流が途切れないよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に清潔であることを心がけ、明るさ・温度・湿度・換気に配慮している。また、壁面には季節感あふれるディスプレイをし、テーブルや玄関には、季節の花を用いた生花を置くなどして、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	玄関や廊下に、季節に合わせた飾りものを置き、玄関やリビングに季節の花を生けている。2階は、自然の光が差し込んで明るい。建物の立地上、1階は、自然光が入るところが少ないため照明で明るさを確保している。室内には大型テレビ、テーブル、椅子、ソファを配置している他、廊下にもテーブルと椅子を置いて、利用者が思い思いに過ごせるように居場所づくりをしている。キッチンからは、調理の音や匂いがして、生活感がある。温度、湿度、換気にも配慮して、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の窓からは畑の野菜や花だんの花、近くの田園風景を見ることができる。食堂横の居間や廊下にソファや椅子・テーブルを設置してあるので、独りで雑誌や新聞を見たり、CDやDVDでの音楽鑑賞をしたり、利用者同士が自由に会話できる居場所づくりに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅や入居前地でこれまで使っていた馴染みのあるものや、本人が大切にしている家族の写真・飾りもの等を置き、本人が安心して過ごせるよう支援している。	ベッド、テーブル、椅子、ダンス、鏡台、衣装ケース、寝具、テレビ、ポールハンガー、時計など使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、家族の写真やカレンダー、ぬいぐるみ、鉢植えを飾って、安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間及び居室入口に手すりを取り付け施設全体が、バリアフリーになっているので、利用者が安全に移動することができる。利用者用エプロンの置き場所は目につきやすい場所にして自力で用意できるよう工夫している。 又、神棚に置く榊の花立や畑・植木鉢の水管理も手伝っていただいている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム山口あかり園

作成日: 平成 29 年 4 月 13 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員の応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続	看護師による講習会の実施	年に2回ほど実施する	1年
2	5	運営推進会議の地域メンバーの拡大の工夫	新規参加者の依頼の検討	フォーマルサービス以外にも、インフォーマルサービスへの働きかけも積極的に行う。	1年
3	4	全職員での評価への取り組み	自己評価及び外部評価の正しい実施	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で自己評価を実施 ・冊子に基づいて自己評価を行い、会議を開いて全職員で検討、共有する。 	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。